



◆大橋 三男 議員

基盤整備と町事業の融合性は

町長 基盤整備にて一括して進める

当町に於いては今年度より経営体育成基盤整備が進行しているが、区域内では町道の拡幅工事も進められている。今後の動向は。

問 現在施工中の町道53号線(国道258号線から大巻高柳地区の揖斐川堤までの拡幅工事)の工事継続は。

答 町の道路整備事業を農地基盤整備事業に委託し、農地基盤整備の中で一括して進めていく。

問 農地基盤整備事業と施工中の町仕様とは道路幅員が異なるが、今後施工の幅員は。

答 町の施工済み道路幅員同様に舗装幅員6・5mを計画している。

問 農地基盤整備区域の中央の南北路線に池辺地区拡幅要望の水路沿いで延長3kmの通学路があるが、対処は可能か。



基盤整備場内の通学路

答 現在進めている基盤整備事業では拡幅は出来ないが、現道道より拡幅する事により利便性が向上し、交通弱者の危険性が増すことになるので、歩行者の安全確保の路面標示や標識等の対応を今後協議してゆく。

お悔やみコーナーの設置を

町長 手続き一覧チラシ等改善する

他市では死亡届等の手続きが煩雑で解りにくいとの声から、極力短時間で済ませれる専用窓口が設置され、サービス向上が図られている。

問 昨今の社会情勢は高齢化傾向やコロナ禍の影響もあり、不幸があれば家族葬が主流となっている。家族での煩雑な手続き等が必要となるため、短時間で済むような住民サービス向上のコーナーの設置を。

答 各種手続きは、担当部署へ連絡しできる限りワンストップで対応調整している。今後、手続き一覧チラシを改善し、丁寧でわかりやすい案内を行っていくことで、町民の方々の利便性の向上を図っていく。



イベント中止で暮らし優先へ

町長 国の臨時交付金を積極的に活用



◆水谷久美子 議員

コロナ第五波で医療現場がひっ迫する中、国・県・町内各区のイベントの中止が早い段階で中止の周知が図られている。

問 町主催の年度内観光イベント開催の検討は。

答 緊急事態宣言の発出、今後の見通しが不明瞭であり、事業の取り下げをした。

問 本年度のイベント縮小・中止による不執行予算総額は。

答 「高田祭り」や「養老フェスタ」中止により約1450万円の見込み。

問 国・県のコロナ感染症対策補助金対象にならない町内店舗数の把握は。

答 休業・時短要請による協力金の対象においては飲食店138店の内、64店舗が対象外である。



2019年開催の養老フェスタ

問 海津市などに学び対象外の店舗も含め町独自の「中・小規模事業者応援補助金」を創設する考えはないか。

答 国の臨時交付金で「小規模事業者」にネクストチャレンジ事業補助金を創設し、補助対象事業を増やし、支援強化を図る。

粗大ごみワンストップ化の検討は

町長 窓口申請が違法ごみの抑止に

コロナ禍が長期に渡ることからDIYブームが起き、また終活の一環や空き家の整理などに時間を費やす町民が増えている。

問 戸別収集では、月に一度、平日の指定された日に限定されていることから直接搬入処理を行う町民が多い。現在の処理方法を見直し、直接センターに搬入できるよう「ワンストップ化」を望む町民の声も多い。実現できないか。

答 直接搬入は、事前に住民環境課で搬入物の確認を受け、許可申請書に記入し許可書を受け取り、粗大センターへ持ち込むシステムになっている。申請手続きと搬入を同時に済ませることは望ましいが、管内8市町の受け入れは難しい。最近では、一般家庭では考えられない大量のごみや、特殊な素材や廃材が持ち込まれ、窓口での啓発や抑止効果もあり現在の方法を継続する。

問 事務の簡素化や効率化から許可申請書を町HPからダウンロードできるように改善を求めたい。

答 コロナ禍における改善としても組合と協議していきたい。



貯留ピット

第1申請書(第3条第2項)	
粗大廃棄物等投入許可申請書	
西南濃粗大廃棄物処理組合	
管理者	住所
申請者氏名	TEL
西南濃粗大廃棄物処理センター条例第5条第2項の規定により、次のとおり粗大廃棄物等の投入許可を受けたので申請します。	
投入時期	記
投入時期	主たる粗大廃棄物等の種類(具体的な)
投入時期	投入量

粗大廃棄物の申請書

ほかに「コロナ禍での国民健康保険税の減免について」の質問もしました。